

簡易消火装置を積載した赤バイの開発

八千代市消防本部警防課

1 はじめに

千葉県八千代市は、成田山新勝寺の宿場町として発達し、その後高度経済成長に伴い、首都圏のベッドタウンとして住宅団地の建設が進み、人口の急増をみた。しかし中心街(私鉄京成電鉄の駅周辺)は依然として路地も狭く、市内を東西に貫く国道は慢性的な渋滞に見舞われ、災害時における消防自動車等の進入に解決策を見出せない状況であった。

2 二輪消防自動車の導入

これらの状況の中で、二輪消防自動車の発想は以前からあったが、阪神・淡路大震災における被災地での二輪車の活躍に再着目していた。

しかし、積載する消火装置が特定できずにいたが、幸いドイツ製の IFEX インパルス消火システム(写真 1)の紹介があり二輪消防自動車の導入に踏み切った。

3 二輪車の車種選定

車種の選定には、当初悪路走行に有効なオフロードを視野に入れていたが、積載物の総重量が 30.2kg と重く、車高の高いオフロードは、安定性に問題があり、又積載物を取り外すにも問題点が出て、オーソドックスなオンロードタイプの車種に落ち着いた。

又、排気量については、緊急自動車としての指定車両(250c. c. 以上)の条件と、転倒時に起こして再走行が容易にとの条件により、比較的軽量な 250c. c. 級を選定した(写真 2, 3)。



写真1 IFEXインパルス12ℓバックパックシステム



写真2 赤バイ



写真3 積載装置

千葉県公安委員会緊急指定車両（平成8年11月28日認定）

車種

- ホンダ ナイトホーク（MC26型）
- 総排気量 233cc
- 車両重量 145kg

4 運用

平成9年1月、消防署救助係甲・乙20名の中から14名を赤バイ隊員として指名し兼務で運用を開始した。

5 効果

- (1) 道路狭隙箇所及び交通渋滞でも災害現場に早く到着できる。
- (2) タンクの水を使用するため、直ちに消火活動ができる。
- (3) ビル火災時等は消火による水損が少なくすむ。
- (4) 震災時の応急救護及び物資の緊急搬送、情報収集等に活用できる。

6 事業費

合計 5,232,400円（税込み）。

平成8年度事業で1台2,616,200円で2台購入した。

7 赤バイの装備

- IFEX12 リッターバックパック一式
—内訳—

IFEX インパルス銃 1本

IFEX12 リッターバックパック 1体

IFEX300-2,4 ボンベ 1本

- 移動用無線機 1基

携帯1w アンテナ外部装備

（無線周波数5波実装）

- 応急処置用具 一式

8 おわりに

はじめての二輪消防車なのでまだ未解決の課題もありますが、本市の都市形態と交通事情を勘案し、平成9年1月7日に運用を開始しました。